



# 南郷

札幌市立南郷小学校 学校だより 第9号

令和7年 11月28日

【学校電話】011-861-9305

【学校ホームページ】

<https://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/>



## 「50cmの被り」が子どもを育てる

校長 関根 治彦

「治彦、除雪をするときは隣の家との境目、50cm くらい先までするんだ！」

私が子どもの頃、父親に言われた言葉です。受け売りですが、私が教師になってから、クラスの子どもにこの話をしました。そして、新卒で3年生の学級を受けもっていたときの2月の懇談会でこのことが話題になり、あるお母さんが次のようなお話をしました。

「子どもと一緒に雪かきをしていたら、隣の所までやり始めたので『えらいね。』と言ったら、『先生に言われたから』と言うのです。そこで意地悪をして『でも、自分ばかりがやったら損じゃない？』と聞いたら、『そうだね』と言うんですよ。」それに対し、私が「十分な指導ができずに申し訳ありません。」と言うと、そのお母さんは「その時、私は、『隣の人かやるかやらないかは関係ないんじゃない!? 先生もそう言ってなかった?』と話すと、『そうだ! そんなこと言ってた!』と言うんです。それを思い出させるのも親の大切な仕事なんですね。雪かきのように、先生と親で“被り(かぶり)”をつくるのが大事なんだなと思いました。」という内容のお話をしてくださいました。

まだ若かった私は、「被りをつくる」という大切な言葉を、このお母さんからいただきました。私の方も、それぞれの家庭で為されている子育てを知らなければならぬと痛感し、「お母さんに〇〇って言われた。」と子どもが言ってきたとき、「へ〜。そうなの。」と無条件に受け入れるだけでなく、「それはきっと…」と話をするようにしています。

「だって、先生が言っていたもん」とお子さんから言われたことはありませんか? 私たち教師は逆に「だって、お母さん(お父さん)がそう言っていたもん」という声を聞きます。子どもは、保護者や教師を絶対視するのです。私は様々な席で「教師(学校)と保護者(地域)は車の両輪です。左右違う方を向いていると車は前に進みません。互いの向いている方向を確認し、補い合っていくことでより前に進んでいくことができます。私(学校)のしていることで、気になることがあれば、まずは私(担任)にその意図を聞いてみてください。決して、子どもの前で先生や友達の悪口を言わないでください。」という話をします。

11月23日~24日にちえりあホールで開かれたコンクールで、南郷小学校金管バンドが念願の全道大会出場を果たしました。先日、校長室に報告に訪れた子どもたちの晴れやかな姿を思い出すだけで胸が熱くなります。子どもたちは土日、長期休業を返上して練習に取り組んできました。その子どもたちの頑張りの成果が実ったのです。ただ、子どもたちに忘れてほしくないのは保護者会の皆様の支えです。子どもたちの休日練習のためにお弁当を作ってくださったり、演奏会場までの楽器の運搬や演奏会の補助をしてくださったり、その支えなくして今回の成果はありません。音楽系の活動は日々の絶え間ない練習も大切ですが、聴いてもらうこと、人前で演奏することを通して上達していくのです。実はこれがもっとも厄介で、どのクラブ、少年団も難儀しているのが実情です。私自身、金管バンドの運営に関わってはいないのですが、演奏できる機会を担当の先生が見付けてきて、保護者会の皆さんに伝えと保護者会の皆さんが細かな準備、手配をしてくださっているのではないかと思います。保護者と教師の「被り」が子どもたちの活動や成長を支えているのを実感せずにはいられません。

2学期もあと1か月となりました。南郷小学校の子どもたちは素晴らしい成長を見せてくれています。今後も保護者の皆様と「被り」を大切にしながら、更なる成長に関わっていきたいと思います。御理解と御協力をよろしくお願いいたします。